

施策	94	効率的、効果的な行財政運営	政策	9	市民と共に進める行政経営
施策主管課	企画課	課長名	松尾 聡	内線	2220
政策担当部長名	総務部長 小池永利				
施策関係課名	財政課・税務課・納税課・福祉課・議会事務局・監査事務局				
重点施策	関連計画	飯田市行財政改革大綱における改革プラン、定員適正化計画、人材育成基本方針			

1 施策の目的

目的	対象	市の行財政
	意図	効率的・効果的な行財政運営がされ、市民に信頼される

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
① 財政規模(一般会計・特別会計)	億円	870	836	855	899		-
② 職員(臨時職員含む)	人	2278	2332	2395	2459		-
③	人(正規)	1406	1437	1466	1499		-
④	人(臨時)	872	895	929	960		-
成果指標 ※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
① 集中改革プラン(H19-23)改革プラン(H24-28)の目標達成度	%	61.0	61.3	62.5	集計中		100
② 市役所を信頼できると感じている市民の割合	%	62.5	62.1	61.0	65.1		67
③ 一般会計積立金残高(主要4基金)	億円	51.9	55.6	55.8	59.8		30 程度
④ 地方債残高	億円	876	835	809	776		700以下
⑤ ア)一般会計(臨時財政対策債を除く)	億円	297	275	267	249		235以下
⑥ イ)特別会計	億円	579	560	542	527		465以下

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	市(国・県) ○行財政改革大綱、集中改革プランにより効率的効果的な運営を行う。 ○安定した財源確保を図りながら、歳出の選択と集中を行う。 ○行政評価、監査を実施し公表する。	①集中改革プランの目標達成度(%) ②一般会計財政規模(億円) ③一般会計地方債残高(億円) ④監査の実施件数/監査の計画件数 ①②③の実績は、上記成果指標のとおり	①			
			②			
			③			
			④			
			100	100		100
主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	市民・事業者 市外の住民 ○市の事業や財政状況等を理解し、納税する。 ○市の応援団としてふるさと納税に協力する。	①税金の収納率 ②ふるさと寄付金	・収納率は県内トップクラスであり納税意識の高さを表している。			

3. 平成24年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

税収を中心に歳入の確保、行財政改革の推進等歳出削減に努め地方債残高を縮減し基金積み立て額を増加させるなど財政の健全化が進んだ。また市民会議や議会からの提言、視点なども生かし財政運営を行うとともに公平公正なサービスの提供に努め成果指標である「市役所を信頼できる感じている」とした市民の割合も上昇を見せている。

【事務事業群テーマ別の評価】

<無駄な歳出の削減>

・行財政改革大綱及び行革プランにより、行財政改革を実施してきた。成果として市立病院の経営黒字化をはじめ、正規職員数の目標値を上回る減少や適正な入札の執行など計画額を上回る効果額を生み出してきた。
・これにより、期間中の財政目標である市債残高の減少や基金残高の確保について改革の効果が表われ、おおむね健全な財政状況にあるといえる。

<歳入の確保>

・予算や決算についてもなるべくわかりやすい情報提供に努め、財政状況を理解していただくとともに、適正な滞納処分により収納率も高レベルを維持してきた。
・ふるさと寄附金の制度の趣旨について、ふるさと会、高校同窓会などを通してPRしてきた。

<公平・公正な行政サービスの提供>

・市民会議から「市民との協働があって、初めて小さな市役所が実現できる。市民が自分たちでやろうという意識啓発が必要。」等の貴重な意見が行財政運営において重要となった。
・議会活動である調査研究によって得られた知識により、公平・公正・良質なサービスの提供、効率的な行財政運営のあり方等へ新たな視点をもたらした。

<長期財政見通しに基づいた財政運営>

・行財政改革の推進により、地方債残高は着実に減少してきている。・第5次基本構想基本計画の後期計画に連動した新たな行財政改革大綱、改革プランを実行している。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・健全な行財政運営を図るため引き続き「飯田市行財政改革大綱及び改革プラン」に基づき歳入の確保に積極的に取り組み、歳出には細心の注意を払う。
・人口減少、高齢社会にあって日々発生する今日的課題に的確かつ柔軟に対応していくためには、飯田市の持つ特性である地域のことは自らのことと捉え取り組んできた気質風土を大切に、市民主体の地域づくりを市が支えてきたこれまでのあり方をさらに守り育てていく必要がある。またそのための市民(地域、事業者等)と市がともに学習する機会の創出とともに、人材を育成する諸施策の展開が不可欠となる。
・行政評価や監査の実施と公表により、過程と結果を共有し、市民、地域、企業団体及び行政など、それぞれが役割を分担し合う総合力のまちづくり推進を図る。